

Q

生態系ネットワーク（エコロジカルネットワーク／エコネット）とはどのようなもので、形成するためにはどのように取り組んだらよいか教えてください。

A

生物多様性が保たれた国土を実現するために、保全すべき自然環境や優れた自然条件を有している地域を核として、これらを有機的につなぐ取組みです。

## Answerの概要と基本的考え方

- 生態系ネットワークとは、生物多様性が保たれた国土を実現するために、保全すべき自然環境や優れた自然条件を有している地域を核として、これらを有機的につなぐ取組みである。
- 生態系ネットワークの形成により、生物多様性の確保を図り、人と自然とのふれあいの場を提供することで、地域に社会面・経済面において様々な効果をもたらすことが期待される。
- 流域の農家・NPO・企業・自治体などの賛同者が集まり、取組みのシンボルとなる指標種や取組みの目標を定め、互いに連携しながら継続的な活動を進めるものである。



生態系ネットワーク（エコロジカルネットワーク／エコネット）とはどのようなもので、形成するためにはどのように取り組んだらよいか教えてください。

## Answerの詳細

- 生態系ネットワークの考え方は、国間や国全体を単位として考える広域に及ぶネットワークが想定される場合もあれば、河川や流域を単位とした地域レベルでのネットワークを想定する場合もある。
- 生物多様性を保全・再生するためには、生物の分散・移動を可能として個体群の交流を促進し、種や遺伝的な多様性を保全することが必要で、そのためには生物の生息・生育地をつなげることが重要となる。
- 河川での取組みとして、魚道の設置、樋門などの改修(河川～農業用水路の生態系の連続性の回復)、ワンド・旧流路の保全・再生などがあげられる。流域全体での生物多様性を保全・再生するためには、河川内での取組みだけでなく、水田や樹林や池沼など流域全体での取組みが必要であり、そのためには、河川管理者、自治体、農林漁業者、NPO、学校、企業など多様な主体の連携が重要となる。例えば、堤内地での、水田魚道の設置(農業用水路～水田の生態系の連続性の回復)、有機・減農薬による農作物の栽培（農地の生物多様性の向上）などがあげられる。
- これらの取組みを持続的かつ効果的に進めるためには、経済的な価値が生まれるような工夫が重要であり、生態系ネットワーク形成の取組みを上手く経済の活性化につなげていくためには、行政関係者の他にも、農業、観光、商工などの多様な分野の人達との連携が重要となる。



生態系ネットワーク（エコロジカルネットワーク／エコネット）とはどのようなもので、形成するためにはどのように取り組んだらよいか教えてください。

## Answerの詳細

### 1) 取組みを成功させるポイント 1 「指標種」となる生きものを選ぶ

生態系ネットワークの形成に向けて様々な主体との連携を進める上では、地域の生態系の状況を表す特徴的な生きものを「指標種」として選定することが効果的である。指標種を選定することで、取組みの道筋や目指すべきゴールが関係者で共有しやすくなる。

生態系の広域的なつながりを示す指標種の例として、ハクチョウ類、ガン類、コウノトリ、トキなどの大型水鳥があげられる。また、流域における生態系のつながりや地域性を示す指標種の例として、イタセンパラ、ハリヨ、サケ、モクズガニ、ナゴヤサナエなどの水生動物類があげられる。

**生態系の広域的なつながりを示す指標種**

河川の流域から地方圏域、全国そして世界へと広域的に移動する鳥は、生態系ネットワークの連結性を示す良いシンボルになります。また、その中でも大型鳥類はよく目立ち、多くの人々に対して取組みの効果を実感してもらいやすい生きものと言えます。

**ハクチョウ類**




オオハクチョウ      コハクチョウ

**ガン類**





マガン      ヒシクイ      シジュウカラガン

**ツル類**





ナベヅル      マナヅル      タンチョウ

**コウノトリ・トキ**




コウノトリ      トキ

**流域における生態系のつながりや地域性を示す指標種**

河川の上・中・下流や支川・水路・水田・池沼などの流域内の様々な水域のつながりや面的な広がりが、その生息域を支えている魚類や昆虫などがあります。これらの中には、地域の固有性や希少性、歴史・文化・生活とのかかわりなどが顕著な生きものもあり、地域における取組みの良いシンボルとなります。



イタセンパラ



ハリヨ



サケ



モクズガニ



ナゴヤサナエ

写真(コウノトリ以外)：(公財)日本生態系協会

指標種の例



生態系ネットワーク（エコロジカルネットワーク／エコネット）とはどのようなもので、形成するためにはどのように取り組んだらよいか教えてください。

## Answerの詳細

### 2) 取組みを成功させるポイント2 多様な主体との連携体制の構築

地域の生物多様性を保全・再生するためには、水田で生物多様に配慮した農法に取り組んだり、樹林や池沼を保全・再生したりと、流域における取り組みが必要となる。流域全体のネットワーク化を進めるためには、河川管理者、自治体、農林漁業者、NPO、学校、企業など多様な主体の連携が重要である。

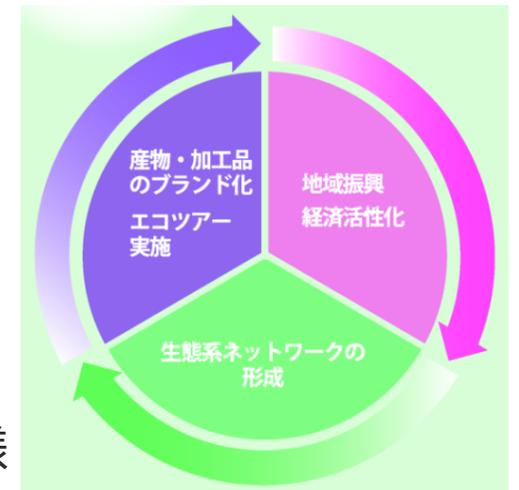


多様な主体との連携のイメージ

### 3) 取組みを成功させるポイント3 経済的な価値が生まれるような工夫

生態系ネットワーク形成の取組みを持続的かつ効果的に進めるためには、経済的な価値が生まれるような工夫が重要である。全国では、指標種となる生きものの生息に配慮した農法で生産した農産物の販売や、エコツーリズムによる観光の促進につなげる展開が各地で始まっている。

生態系ネットワーク形成の取組みを上手く経済の活性化につなげていくためには、行政関係者の他にも、農業、観光、商工などの多様な分野の人達との連携が重要となる。



生態系ネットワークの形成から経済的な価値が生まれるイメージ